

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

第2期大山崎町まち・ひと・しごと創生推進計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

京都府乙訓郡大山崎町

### 3 地域再生計画の区域

京都府乙訓郡大山崎町の全域

### 4 地域再生計画の目標

本町の総人口は、昭和61年（1986年）の16,638人を頂点に減少傾向にあったが、近年増加傾向に転じ、令和5年（2023年）9月末時点で16,651人である。

年齢階層別にみると、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）、老年人口（65歳以上）は、いずれも過去5年間において増加傾向にあり、そのうち老年人口（65歳以上）の令和3年度から令和5年度にかけては、やや減少している。本町の年少人口（0～14歳）が総人口に占める割合は、全国や京都府の数値と比較するとやや大きくなっており、年少人口の構成比は全国、京都府で減少している一方、本町では増加している。

第3期大山崎町人口ビジョンにおいて行った将来人口の推計結果では、年少人口は令和17年（2035年）以降減少期にはいる。生産年齢人口は、令和12年（2030年）以降減少期にはいる。老年人口（65歳以上）も令和17年（2035年）までは横ばいであるが令和22年（2040年）～令和37年（2050年）に増加し、令和42年（2060年）には減少期にはいることが推測される。

自然動態について、自然増減（出生－死亡）は、平成24年（2012年）、平成27年（2015年）を除きプラスで推移している。合計特殊出生率については、平成15－19年（2003－2007年）は全国に比べて低い状況であったが、平成15－19年（2003－2007年）以降は上昇しており、平成30－令和4年（2018－2017年）は1.90と全国・京都府より高くなっている。

社会動態について、社会増減（転入－転出）は、平成 25 年（2013 年）以降プラスが続いており、人口増減数についても平成 25 年（2013 年）以降プラスで推移している。

今後、人口減少や少子高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退など、住民生活への様々な影響が懸念される。

これらの課題に対応するため、結婚、出産、子育て、保育、教育までのライフステージにおいて切れ目のない施策の充実を図ることで、自然増につなげる。また、まちの活性やにぎわいの創出から、大山崎町に愛着やつながりを持つ人を増やし、移住定住の促進を図ることで、社会減に歯止めをかける。

なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ目標の達成を図る。

- 基本目標 1 とともに学び、ともに育つまち
- 基本目標 2 支え合い、助け合うまち
- 基本目標 3 安心・安全に暮らせるまち
- 基本目標 4 自然と歴史、賑わいのあるまち
- 基本目標 5 みんなで築く、持続可能なまち

## 【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K G I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (令和12年度 )	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	「子育ての環境」の満足度	30.1%	40.0%	基本目標 1
ア	学校へ行くのが楽しいと 感じる児童生徒の割合（直 近3か年平均）	79.8%	84.0%	基本目標 1
ア	「生涯学習活動」の満足度	15.9%	20.0%	基本目標 1
ア	「男女共同参画の取り組	7.0%	10.0%	基本目標 1

	み」の満足度			
ア	「文化・スポーツ活動の環境」の満足度	12.5%	15.0%	基本目標 1
イ	認知症の認知度・理解度	40.1%	45.0%	基本目標 2
イ	「障がいを理由とした差別や偏見がない」と回答した人の割合（障がいのある18歳未満の人の割合）	5.6% (R 5年度)	10.0%	基本目標 2
イ	「障がいを理由とした差別や偏見がない」と回答した人の割合（障がいのある18歳以上の人の回答）	21.4% (R 5年度)	25.0%	基本目標 2
イ	地域福祉の関心	9.0% (R 4年度)	15.0%	基本目標 2
イ	「健康づくり」の満足度	19.6%	25.0%	基本目標 2
イ	「保健・医療」の満足度	20.4%	25.0%	基本目標 2
ウ	「生活用道路の安全・快適さ」の満足度	20.3%	30.0%	基本目標 3
ウ	「消防・救急・防災」の満足度	29.3%	40.0%	基本目標 3
ウ	「公園・緑地等の環境」の満足度	39.4%	45.0%	基本目標 3
ウ	「環境に配慮した生活」の満足度	31.1%	35.0%	基本目標 3
エ	「まちの歴史や伝統に誇りを感じる」町民の割合	18.4%	20.0%	基本目標 4
エ	大山崎町への愛着（一般）	78.6%	80.0%	基本目標 4
エ	大山崎町への愛着（小6・中学生）	78.5%	80.0%	基本目標 4
エ	「自然環境の保全・豊かさ	70.6%	72.0%	基本目標 4

	」の満足度			
エ	住民の定住意向	60.5%	62.5%	基本目標 4
オ	「町内の交流活動」の満足度	10.1%	15.0%	基本目標 5
オ	「まちづくりへの町民の参加・協働」の満足度	8.4%	10.0%	基本目標 5
オ	「地域行事やボランティアなどの地域活動に参加したい」小中学生の割合	74.9%	80.0%	基本目標 5
オ	「行政サービスの利用の便利さ」の満足度	11.6%	15.0%	基本目標 5
オ	町職員の満足度（町職員の働きがい）	30.7%	50.0%	基本目標 5

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

#### ① 事業の名称

第2期大山崎町まち・ひと・しごと創生推進計画

- ア とともに学び、ともに育つまち事業
- イ 支え合い、助け合うまち事業
- ウ 安心・安全に暮らせるまち事業
- エ 自然と歴史、賑わいのあるまち事業
- オ みんなで築く、持続可能なまち事業

#### ② 事業の内容

- ア とともに学び、ともに育つまち事業

・すべての町民が学び、体験し、成長できる機会をみんなで築き、地域の交流を通じて多様な価値観を理解し合い、尊重し合えるまちをめざします。

・つながりと支え合いを大切にし、誰もが安心して子育てができ、子どもたちが生きる力を育むことのできるまちをめざします。

**【具体的な事業】**

・多様なニーズに対応した子育て支援の環境を整備

・質の高い学力の育成に取り組み 等

**イ 支え合い、助け合うまち事業**

・子どもから高齢者まで、誰もが健康に、いきいきと暮らせるよう、普段から地域で互いに支え合い、助け合うまちをめざします。

・そうしたつながりを生かして、災害時にも地域で声をかけ合い、助け合えるまちをめざします。

**【具体的な事業】**

・高齢者一人ひとりが元気でいきいきと暮らせる環境を整備

・住民のための防災支援 等

**ウ 安心・安全に暮らせるまち事業**

・緑豊かな自然の中で、誰もが安心・安全に暮らせるよう、都市基盤の維持・整備を進め、快適で災害などのリスクに強いまちをめざします。

・地域で取り組む省資源、脱炭素の取り組みを通じ、環境にやさしいまちをめざします。

**【具体的な事業】**

・安全で安心して生活できる道路整備を促進

・持続可能な公共交通を維持 等

**エ 自然と歴史、賑わいのあるまち事業**

・豊かな自然環境と歴史文化をみんなで守り育て、町の魅力を内外に発信することで、町民一人ひとりが誇りや愛着を持てるまちをめざします。

・交通利便性や豊かな自然を活かし、産業・観光を活性化させることで、地域ににぎわいと活力を生み出し、住みたくなる魅力あるまちをめざします。

**【具体的な事業】**

- ・大山崎町の魅力を広く発信
- ・地域と一体となった商業の展開 等

**オ みんなで築く、持続可能なまち事業**

- ・町民一人ひとりがまちづくりの主役となり、町民、関係団体、企業、行政などが一体となって協働によるまちづくりを進め、少子高齢化の中にあっても、限られた資源を有効に活用する「持続可能なまち」をめざします。

**【具体的な事業】**

- ・町民との“協働”によるまちづくり
- ・民間技術やAIなどの先端技術を活用した行政運営の効率化 等

※なお、詳細は大山崎町第5次総合計画のとおり

**③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要目標達成指標（KGI））**

4の【数値目標】に同じ。

**④ 寄附の金額の目安**

2,400,000千円（令和8年度～令和12年度累計）

**⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）**

毎年度8月頃に、施策の進捗状況や効果を取りまとめ、外部有識者等で構成する「大山崎町総合計画審議会」による効果検証を行う。検証結果は大山崎町ホームページ上で公表する。

**⑥ 事業実施期間**

令和8年4月1日から令和13年3月31日まで

**6 計画期間**

令和8年4月1日から令和13年3月31日まで